

兵庫県こころのケアセンター 平成26年度実施分に係る
外部評価委員会 業績評価（総合評価）

所 見

- ・ ト라우マ・PTSDに関する専門的な相談・診療、教育研修・研究機関である、全国初の「こころのケア」の拠点施設として、平成16年度開設以降、調査研究・研修・相談・診療・地域支援活動など、多様な取り組みを進めてきた。11年が経過し、東日本大震災の被災地支援等の精力的な活動展開や業績評価システム導入による効率的な運営努力の結果、事件や事故における「こころのケア」に係る独自の役割機能に関する全国的な認知の広がりや積極的な活用の好循環を生み出している。
- ・ 当センターは従来より、「こころのケア」に関する専門知識と専門技術の開発と普及に務めてきたが、当該年度においては研修事業、情報の収集発信・普及啓発事業、連携・交流事業、ヒューマンケアカレッジ事業のそれぞれについて質量ともに充実した活動を行い、いずれについても情報の受け手（研修の受講者等）から高い評価を受けた。ホームページにおいても、「子どものトラウマ診療ガイドライン」「こころとからだのケア」などの内容の充実を図ったことでアクセスが増加したことから、当センターが発信した情報が多くの人たちに活用され、貴重な社会貢献を果たしたといえる。
- ・ 当該年度において特筆すべき事項として、「ひょうごDPAT」の創設に当たり、マニュアルの作成、研修会の実施、体制整備支援等を行ったことが挙げられる。これは全国のDPAT活動をリードし牽引するものであった。
- ・ さらに、当センターに蓄積された経験、知識、技術による社会貢献として、実際の災害現場への支援活動が挙げられる。東日本大震災の被災地への支援が継続的に実施され、当センターの経験と知識が遠隔地である被災地においても活用された。県内でも丹波市豪雨災害や洲本市殺害事件等について、コンサルテーションなどの支援が行われ、当センターの専門性と特殊性が発揮された。
- ・ 先述のような好循環はまた、相談・診療事業および調査・研究にも見られる。前者については、当センターの特色が認知されトラウマ・PTSDに関連した相談・診療件数が増えており、症例と臨床経験がさらに蓄積されつつある。後者については、短期研究においてDPATに関する先駆的な取り組み、長期研究では阪神・淡路大震災の被災者への面接の拡大継続、および東日本大震災の被災地における支援者支援活動に関する研究等が行われているが、とくに今後の遠隔地からの支援者支援の方向性の策定に資するものとして今後の進展が大きく期待される場所である。
- ・ 以上のように、調査研究、情報発信、研修、相談、診療、連携交流等の事業を有機的に関連させながら非常に効果的に展開されてきており、それがトラウマ専門機関としての高い評価と信頼を生み出している。また、子どものトラウマへの取り組みが強化されたことで、子どもの被害に関するものが相当の割合を占めるようになってきたことは、被害への早期ケアの観点からも有意義である。
- ・ 今後の課題として、一部講座（ヒューマンケア実践普及講座）の定員充足率が低かったことを踏まえ、受講者のニーズを汲み上げ、開催日の曜日や時間帯についてより柔軟かつ適切な設定を行うとともに、時間的制約等により研修を受講できない方への情報提供ツールとしてインターネットの更なる活用等、新機軸の事業を設定、展開していくことを期待する。
- ・ 一方、設置主体である兵庫県の理解を求め、更なる前進を可能にするような人的財政的拡充を図るべきである。